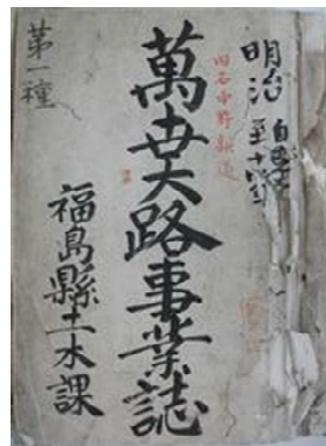


## 【別添参考資料】

『萬世大路事業誌』及び『福島県直轄国道改修史』（編集者星菊助氏）について

### 『萬世大路事業誌』について

福島県土木課編『萬世大路（朱書旧名中野新道）事業誌』（明治14年9月、以下『万世大路事業誌』と表記）とは、中野新道建設事業に関する文書類を取り纏めて編集した書物である。中野新道建設の端緒となった当時の第三区区長立岩一郎の建議、現地ルート・用地調査・道路計画、内務省や山形県との協議、本省通達・往復文書類等、中野新道建設の工事記録・建設費、工事事故状況、新道高低実測図（縦断図）類等々が整理収録されている。そして、ほぼ完成した中野新道の詳細な状況（ルポルタージュ記事）についても「雑記之部」（本稿名称『中野新道記』）として掲載されているものである。本文書は、福島県歴史資料館に所蔵され（明治・大正期の県庁文書番号1961）閲覧できる。



〈写真No.1〉

『萬世大路事業誌』

また、建設省福島工事事務所編『福島県直轄国道改修史』（昭和40年3月）にもその概要部が抄録（復刻活字版）されている。もとより筆者としても『万世大路事業誌』の全体を把握しているわけではなく、当該復刻活字版抄録の範囲内の理解に留まるものであり、収録されていない部分についても興味深い内容が多く含まれているがその解読には苦勞している。『山形県史』における「三島文書」のように全体が活字化されることを切に望むものである。

（注：折しも本稿執筆中の令和3年5月、待望の活字復刻版『萬世大路事業誌』〔二ツ小屋隧道保存会編集発行、守谷早苗氏解説・脚注・解説〕が出版されている。大変喜ばしいかぎり今後大いに参考にさせて頂きたいと考えているが、本稿は既に『福島県直轄国道改修史』所収復刻活字版（抄録）を底本として令和2年4月から進めており従来通りとするのでお断りしておきたい。）

『万世大路事業誌』の編集方針について、编者による冒頭の解説（凡例）によれば、次のような趣旨のことが述べられている。

1. 本書は、岩代国より羽前国に通ずる中野新道の建設工事に関する文書を収録編集し、なるべく全体が分かるよう閲覧者の便宜を図った。

すなわち、明治7年〔1874年〕から明治14年〔1881年〕9月までのことについて掲載したものである。

2. 事柄別（目次）に分類して記載し月日順に詳述しているけれども、関連するものについてはその項目の中に、前後の月日にかかわらず掲載している。

【参考】 目次（事柄別分類項目）と主な掲載事項

#### （1）新道大意之部

- ・ 第三区区長立岩一郎の建議（中野新道建設の端緒）、地元有志・県職員（山吉参事・のち県令）のルート調査、報告書等。
- ・ 電信線路之儀（置賜県）。
- ・ 新道開削上申（大久保内務卿宛）旧道処理

- ・山形縣との新道開鑿結約（目論見書）。
- ・道路之建議（道路構造基準、オランダ人技師エッセル提案、来県視察）。
- ・明治12年11月伊藤内務卿、松方大藏大輔。13年6月高辻侍従、7月中村少書記官、10月品川内務少輔、11月杉宮内大輔、12月石井内務大書記官、14年6月杉宮内大輔、工場（現場）を巡視。

（11月4日、伊藤内務卿〔長官、当時事実上の首相、のち初代総理大臣〕・松方大藏大輔〔次官、のち初代大藏大臣、総理大臣〕の栗子越えは『三島文書（183頁）』に詳しい。当日風雨雪激しく帽子・衣服が飛ばされ艱難辛苦のすえ西口〔米沢側〕に下山したという。）

- ・二ツ小屋隧道工事等
- ・工種別工事状況（道路部内訳書・隧道部内訳書・橋梁部内訳書）
- ・路線図等。

(2) 稟請<sup>りんせい</sup>之部 （上役への申請）

- ・新道換線之儀上申（川子坂経由）
- ・松川橋官林木払下之儀上申
- ・羽州街道落成之儀公布上申

(3) 移文之部 （関係部署への回覧）

- ・栗子隧道高低変更照会（山形県）。

(4) 死傷之部 附患者表

- ・中野新道工事故関係（病院の設置、死傷者340名内死亡4名）。
- （現在閲覧できない。）

注：令和3年5月、閲覧可能となっていることを確認。診断書など歴大な関係資料が収録されている。部分的には『福島県直轄国道改修史』等に抄録されていた。）

(5) 縣廳下達之部

(6) 出張官心得之部

(7) 有志請願之部

- ・福島町置賜通・架橋（用水掘）地元寄附請願。

(8) 土石留方法之部

- ・二ツ小屋隧道落盤処理。

(9) 雑記之部

- ・中野新道記（本稿名称） 新道高低実測図（縦断図）

(10) 會計之部

(11) 土工表

- ・工事総括表（工種別数量総括表）

**（別紙資料 『萬世大路事業誌』原本抄録参照** (1)表紙・凡例・目次 (2)新道大意之部一部（冒頭部分・隧道部内訳書・橋梁部内訳書）(3)土工表(数量総括表)、第5回ルート調査報告書添付絵図）

3. 文書の中には重複しているものがあるけれども、これは詳細な顛末を閲覧者に明らかにしたいためで、報告が漏れることを恐れてのことである（本項は一部推測）。

（明治14年9月 編者識）

## 【参考】『万世大路事業誌』掲載（抄録）文献

現在まで筆者が確認しているものは次の通りである。

- ・『福島県直轄国道改修史』建設省東北地方建設局福島工事事務所編 昭和40年3月
- ・『栗子トンネル工事誌』建設省東北地方建設局福島工事事務所 1968年7月

※本書所収分は『福島県直轄国道改修史』からの転載（一部加筆）と思われる。

なお、前掲書及び本書には、『三島文書』（下記参照）からも幾つかの文書が所収されている。

- ・福島市史編纂委員会『福島市史』（第10巻近代資料Ⅰ〔資料篇5〕）福島市教育委員会  
昭和47年3月31日
- ・福島市教育委員会『福島市の文化財 福島市文化財調査報告書第48集 万世大路調査報告』  
平成19年3月
- ・『三島文書』  
（山形県編『山形県史資料篇二 明治初期下 三島文書』巖南堂書店 昭和37年7月10日）  
本資料は、『万世大路事業誌』とは直接関連しない山形県側の資料であるが、中野新道に関連する文書が多数収録されており、『万世大路事業誌』所収の文書と重なる。
- ・その他  
木暮伸之「近世以降の土木構築物の歴史と活用」（『福島考古第54号』〔2012年7月〕福島考古学会）所収（工事事故死傷者関係が詳しい）。

※『福島県直轄国道改修史』からは「中野新道雑記」（原本名称「雑記之部」）部分を転載させて頂いた（一部修正）。また、またいずれの文献も本稿とりまとめる上で参考にさせて頂いた。

## 『福島県直轄国道改修史』と編集者 星 菊助氏

### 『福島県直轄国道改修史』について

『福島県直轄国道改修史』（建設省福島工事事務所 昭和40年3月、復刻版 平成15年3月）は、国（内務省）が初めて国道の直轄工事をおこなった昭和6年から昭和37年までのほとんどの工事を記録している（福島国道改良事務所関連）。特に昭和8年4月から昭和12年3月までの国道5号（万世大路）改良工事の記録は、筆者ばかりではなく関係者にとっても唯一の情報源となっていると思われる。

奥州街道（国道4号）や万世大路の歴史関係についても有益な資料を提供されている（梅宮茂、菅田宏、その他郷土史家多数が寄稿）。特に万世大路（福島県側）に関しては、福島県庁文書『万世大路事業誌』の概要部分を所収（活字版）している（下記【参考】参照）。また、かつて初代栗子隧道米沢側坑口に建てられていた栗子隧道碑記についても、碑分全文（漢文）が掲載され現代語訳が付されている。



〈写真No.2〉

『福島県直轄国道改修史』

筆者の著述の基本的な出典は、『福島県直轄国道改修史』（『栗子トンネル工事誌』）、『万世大路事業誌』、『三島文書』（『山形県史』）としているが、『万世大路事業誌』は原本が手書きの明治の文書であって、浅学の筆者には全文を正確には到底解読しえないものである。同本からの情報と称しているものは、実は結局ほとんどが『福島県直轄国道改修史』所収の活字復刻版によるものである。数少ないが一部原本から直接引用しているものもある。万世大路事業誌から『改修史』への転載は星氏によると思われるが龐大な文書の解読転載作業には相当のご苦勞があったものと拝察する。これらの成果を利用出来なかつたならば、我々の数々の報文等はありませんであらう。勿論その引用に当たっては、原典と一応照合はしているつもりである。

余談であるが、以前に友人の紹介で、伊達氏の研究者として名高い歴史学者福島大学小林清治教授を、その研究室（上浜町時代）にお訪ねしたことがあった。研究室の本棚の中に、いずれも星 菊助氏の編纂になる建設省福島工事事務所発行の『阿武隈川上流改修史』（1961年4月）、『福島県直轄国道改修史』（昭和40年3月）と共に『栗子トンネル工事誌』（1968年7月）が並んでいたのを覚えている。前の二冊は小林教授の著書『福島県の歴史』（昭和45年、山川出版社、共著）の参考文献としても掲載されている。星氏編纂のそれらの本には付箋用紙が沢山付けてあり「参考にさせてもらっている」と教授はおっしゃっていたものである。その著作物が基本的な文献として価値ある事の証左であらう。

因みに筆者は、このうち『栗子トンネル工事誌』編集委員等（筆者、最年少編集幹事）の一人として星 菊助氏の編集作業をお手伝いしている。当時星氏が原稿執筆や取り纏め、編集委員会などで大変ご苦勞されているのを拝見している。

## 【参考】

### 本書に所収されている『万世大路事業誌』の文献（〔要約表示は原文ではなく要約解説のみ〕）

#### (1) 中野新道計画の概要

- ・立岩一郎による新道開設の福島県への建議（要約）、万世大路建設の嚆矢となる。
- ・ルート調査について 第1回～第7回（一部要約）

第7回（明治9年10月31日）では山吉盛典参事（のち県令）が野宿して現地調査。

関連 置賜県権令（県令）から福島県県令への照会（電信線路）

工部卿 伊藤博文通達（明治8年10月3日）

- ・中野新道開設の許可申請 明治9年12月18日

内務卿 大久保利通宛 福島県参事 山吉盛典

関連 明治9年12月27日 土木権頭（土木局長）から照会（要約）。

照会5項目（工事目論見仕様等、資本金内訳等、路線に関する近傍村々の意向、用地関連、古道存廃之可否〔廃道処理〕）

明治10年1月28日 福島県回答

明治10年5月15日 許可 内務卿大久保利通 （要約）

許可申請に対する内務卿大久保利通代理内務少輔前島密の指令（明治10年5月15日）

- ・道路ノ建議（道路建設技術ニ関スル建議） 1877年〔明治10年〕第7月14日

内務省土木局工師 ゲ・ア・エッセル

・新道開鑿結約 明治9年11月4日

山形県 御用掛 伊藤祐忠

福島県 権大属 清宮 質

中 属 林田蕃善

・隧道坑口位置の照会（福島県から山形県へ）

第577号 明治10年5月25日 山形県令三島通庸宛 福島県権令山吉盛典

第893号 明治10年8月7日 山形県大書記官薄井竜之宛 福島県権令山吉盛典

・測量器械購入依頼 明治10年5月31日

第388号 土木局長石井大書記官宛 福島県権令山吉盛典

(2) 中野新道施行の概要

・土木出張官心得 明治10年5月20日 福島県権令山吉盛典

・有志請願のこと 明治10年6月 福島県権令山吉盛典宛 地元有志

・火薬購入手続き関係

明治10年6月27日 宮城県権令宮城知己亮宛 福島県権令山吉盛典 等

・土地買収その他補償関係 明治10年9月4日 内務卿大久保利通宛上申

福島県権令山吉盛典代理 福島県少書記官中條政恒 山形県令三島通庸 等

・中野新路線変更のこと（上飯坂村経由を大笹生村川子坂・不動滝〔中野不動尊〕に変更）

新道換え線之儀上申 明治10年11月5日 内務卿大久保利通宛 福島県権令山吉盛典

（明治10年12月7日認可）

中野新道潰地調帳引換之儀上申 明治11年12月1日

内務卿伊藤博文宛 福島県権令山吉盛典

（※注 明治11年〔1878年〕5月14日 紀尾井町事件〔大久保利通暗殺〕により伊藤博文が大久保内務卿の後任となっていた。事件当日の朝、外部の人間として最後に面会したのが当時の福島県権令山吉盛典で、その面談内容が大久保の遺言『濟世遺言』として山吉により残されている。）

関連 新道御開鑿之儀願 明治10年12月 山吉盛典権令宛

第1区信夫郡 上飯坂村 中野村（連名省略）

明治10年12月27日 願之通聞届候 福島県権令山吉盛典

・木材払下のこと

羽前国通線中野新道開鑿場架橋用官林木払下之儀ニ付伺

明治11年9月13日 内務卿伊藤博文宛 福島県権令山吉盛典

（明治11年10月1日 許可 内務卿伊藤博文）

・工事施工

明治10年8月1日 第37号 内務省土木局長の照会（概要版）

明治10年8月7日 第568号 内務省土木局長心得 大書記官松平正直宛回答

福島県権令山吉盛典

関連 工業返上ノ儀ニ付上申書 明治11年4月16日 請負人連名（省略）

（二ツ小屋隧道及び高平隧道工事の請負人が請負を返上し許可したもの）

・工事現場内一般人の通行差止め（照会）

明治 12 年 9 月 19 日 山形県令三島通庸宛 福島県令山吉盛典

- ・二ツ小屋隧道落盤事故に伴う土石留方法
- ・架橋之儀ニ付願 福島県権令山吉盛典宛

第 1 区信夫郡福島町置賜通 1 丁目 願人 佐野理八 連名以下省略  
(現在のみずほ銀行福島支店南側にあった用水堀〔当時の川幅 2m 程度〕の架橋)

明治 11 年 12 月 25 日 願之通聞届候 福島県権令山吉盛典

- ・山形県の工事竣功予定の照会 山形県の回答(明治 13 年 8 月 10 日 山形県少書記官深津 無一)
- ・内国勸業博覧会への新道景況模造図出品御見込之儀照会

明治 13 年 10 月 29 日 福島県令山吉盛典宛 山形県令三島通庸

(3) 中野新道事業費予算及び竣功高(物品・労賃の変動表)

- ・明治 14 年 5 月 23 日 福島県宛 内務卿松方正義  
(国庫からの支給額通知)

- ・羽州新道落成ニ付交付之儀上申 明治 14 年 9 月

内務卿山田顕義宛 福島県令山吉盛典宛 山形県令三島通庸

【出来形精算帳等】(上申書添付資料 後日提出)

中野新道工事会計、土工表(道路・隧道・橋梁別数量工費)、工区別着手竣功年月日、  
隧道 3 箇所諸元着手竣功年月、二ツ小屋隧道進捗表、橋梁内訳書(諸元場所等)。

(4) 中野新道工事死傷者関係

(5) 中野新道雑記(原本名「雑記之部」)

本報告書 『中野新道記』(中野新道ルポ)

【参考】所収されていない主な文書等

- ・明治 10 年 7 月 5 日 エッセル来県現地調査
- ・明治 12 年 11 月 伊藤内務卿・松方大藏大輔、明治 13 年 6 月 高辻侍従、  
全 7 月 中村内務少書記官、全 10 月品川内務少輔、全 11 月 杉・宮内大輔、  
全 石井内務大輔、明治 14 年 6 月 杉・宮内大輔 工場ヲ巡視セラル。
- ・羽州新道落成開通之儀に付上申  
明治 14 年 9 月 福島県令山吉盛典山形県令三島通庸 連名  
内務卿松方正義・農商務卿河野敏謙・陸軍卿大山巖宛
- ・羽州新道落成ニ付交付之儀上申への回答 明治 15 年 1 月 25 日 内務卿山田顕義  
聞届候、布告はしない。
- ・縦断図(従福島町元標 至栗子隧道口 新道高低実測図)  
平面図(明治 8 年 10 月上申書添付絵図)

## 編集者 星 菊助氏について

星 菊助氏（宮城県本吉郡柳津町〔現登米市〕出身、明治 39 年～昭和 51 年、享年 77 歳）は、筆者がたびたび参考になっている『福島県直轄国道改修史』（以下『改修史』）の編集者である。

星氏（昭和 46 年退官）は、昭和 6 年（1931 年）4 月、福島県内における内務省の初めての道路関係出先機関となった福島国道改良事務所発足以来（昭和 7 年 9 月 30 日廃止、昭和 8 年 4 月再設置）の職員である。



〈写真No.2〉 2 列目中央が星菊助書記。左隣り高橋忠太郎のち二ツ小屋出張所主任（所長）、その左上が菊地佐一工事（技術員）。星氏の下菊地八郎工事。内務省福島国道改良事務所二ツ小屋工場（出張所）職員一同。昭和 8 年 11 月（4 月事務所再発足）。

「昭和の大改修」を実施するために昭和 8 年 4 月 4 日再設置された福島国道改良事務所においては書記（事務官）を務められた。当時の書記というと現在の事務官とは違い、総務課長（事務所の筆頭課長）クラスでなければ書記にはなれないほどだといわれる。星氏の場合その業務も、単なる事務だけでなく、当時の直営工事設計書（実行予算書）を組み、工事に必要な資材・労務の数量・員数を割り出し手配するというところまでおこなっていたということである。現在の請負工事現場における現場代理人（主任技術者）のような仕事もしていたといえるだろう。

さらに、昭和 7 年の冬には、万世大路改良工事（「昭和の大改修」）の事前調査のために、当時の野瀬正人福島国道改良事務所長（第 2 代、大正 15 年 4 月～昭和 12 年 3 月／阿武隈川改修事務所長兼務）と共に板谷に入り、「昭和の大改修」（昭和 8 年 4 月～昭和 12 年 3 月）の際に設置された資材運搬用トロッコ線路（奥羽本線板谷駅～二ツ小屋隧道米沢側坑口）建設（※）の可否について調査に入られている（『改修史』131 頁）。このことから、星氏が重要な役割を果たしていたことがわかる。

（※）当大滝会HP 下記サイト参照

### 『万世大路・昭和の大改修「材料運搬線路」探索記』

<https://ootaki.xsrv.jp/unpansenro.html>

『改修史』所収の「福島国道改良の思いで」という寄稿文の中で、第 4 代（昭和 13 年 5 月～昭和 18 年 5 月）福島国道改良事務所長（阿武隈川改修事務所長兼務）長浜時雄氏は次のように回想されている。

「……、皆何一つ不平も云わずに一つになって心から私を補佐して呉れた事を今尚感謝して居る次第である。特に道路関係については、武田 祐君、菊地佐一君、高橋 誠君、星菊助君等はよく私の意を体して、実によくむずかしい施工に当たってくれた」（前文 4 頁、傍点筆者）。この長浜所長の回想は、星氏が我々のイメージするいわゆる事務屋さんではなく、工事計画全体に深く関わっていたことを示唆するものであろう。長浜所長の時代は、万世大路改良工事終了後のことではあるが、星氏の立場をよく伝えていると思われる。

星菊助氏の同僚であった技術職員で、実際に二ツ小屋隧道や栗子隧道工事を施工された菊地佐一氏は(写真No.2 参照)、戦後は福島工事事務所松川(荒川)砂防出張所長として活躍された方であるが(昭和36年退官)、常々若い職員に対して、二ツ小屋隧道工事等当時の経験話をよく語ってくれたそうである。それらの経験談は、若い技術者達には大いに参考になったようである。特に「星菊助さんを見習え」とよく言われていたそうで、その模範となる仕事ぶりがかがえる。

星氏の編集にかかる『改修史』(寄稿者名の無い記事は星氏執筆によると思われる。正確には星氏は編著者となるであろう)は、二ツ小屋隧道工事ばかりでなく、他の工事記録においても技術的内容を知悉していなければ到底記述できるものではない。工事計画・施工に深く関わっていなければ書けない内容であり、氏が単なる事務官でないことが分かる。

『改修史』所収の中に「万世大路改築工事の施工その他を省みて」という一文がある。執筆者名の記載がないけれども、内容的に昭和8年から同31年頃までの事柄を網羅して記述していることなどから星氏以外の執筆者は考えられない(寄稿文等には必ず執筆者名を明記)。例えばこの中には、二ツ小屋隧道工事の際に本来使用すべきでない品質不良のセメントを実際に使ってしまいトンネル漏水の原因となったことなど、通常であれば秘匿されてしまうような貴重な情報を我々後輩に伝えてくれている(※)。これがなければ真実は永遠に葬られ、その原因究明もできず技術の進歩に寄与することはできなかったであろう。星氏の誠実な人柄をしのばせるものである。

(※)当大滝会HP 下記サイト参照

### 『令和3年冬、二ツ小屋隧道巨大氷柱実見記』

所収『参考資料』3. 冬の二ツ小屋隧道工事始末記(8頁)

<https://ootaki.xsrv.jp/R3sanko.pdf>

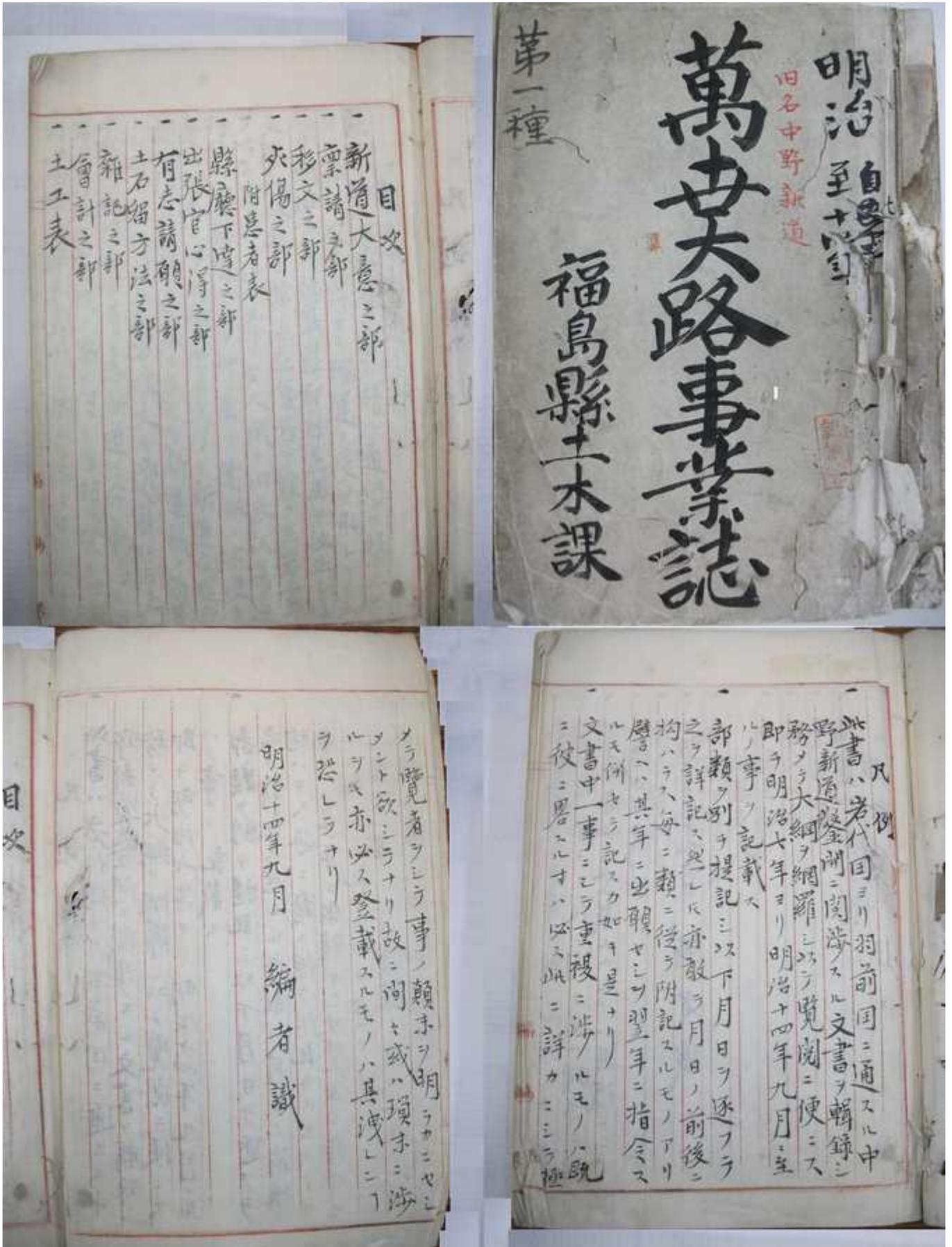
星氏は、一時内務省(建設省)を離れられているようであるが、その後復帰され建設省福島工事事務所松川砂防出張所を経て事務所調査課(昭和35年)に配属、各種貴重な記録書を執筆され昭和46年退官されている。

『改修史』の編集後記に当時の福島工事事務所副長大島一男氏(のち福島工事事務所長、東北地方建設局道路部長)が次のように書いておられる。

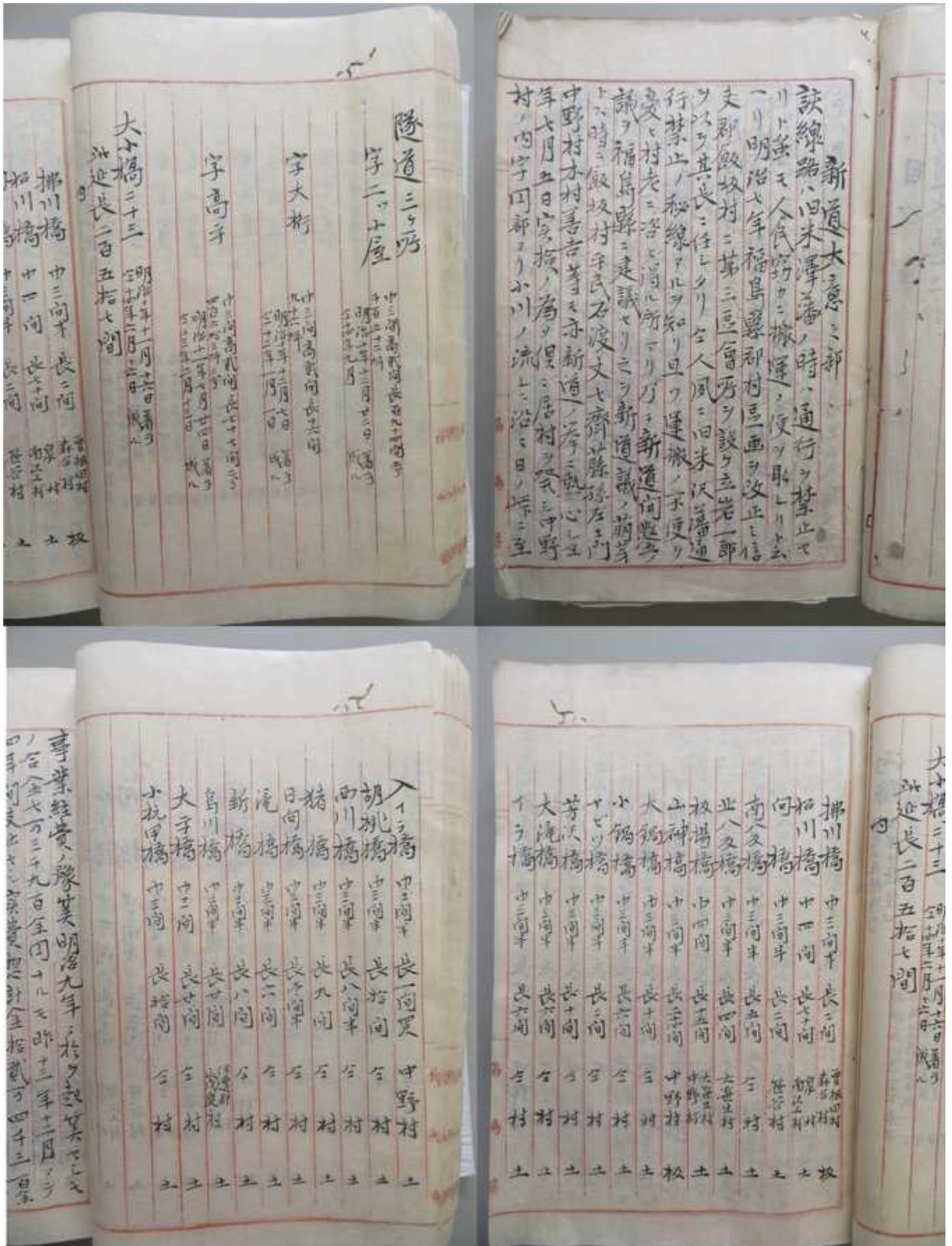
「……一人で資料のしゅう集、整理及び文章の記述を行った星事務官の労に謝意を表すものがあります。」

(以上、元建設省職員の長沢英雄氏の談話などをもとに整理したもので文責は筆者にある。)

(1) 表紙・凡例・目次



(2) 新道大意之部一部(冒頭部分・隧道部内訳書・橋梁部内訳書)



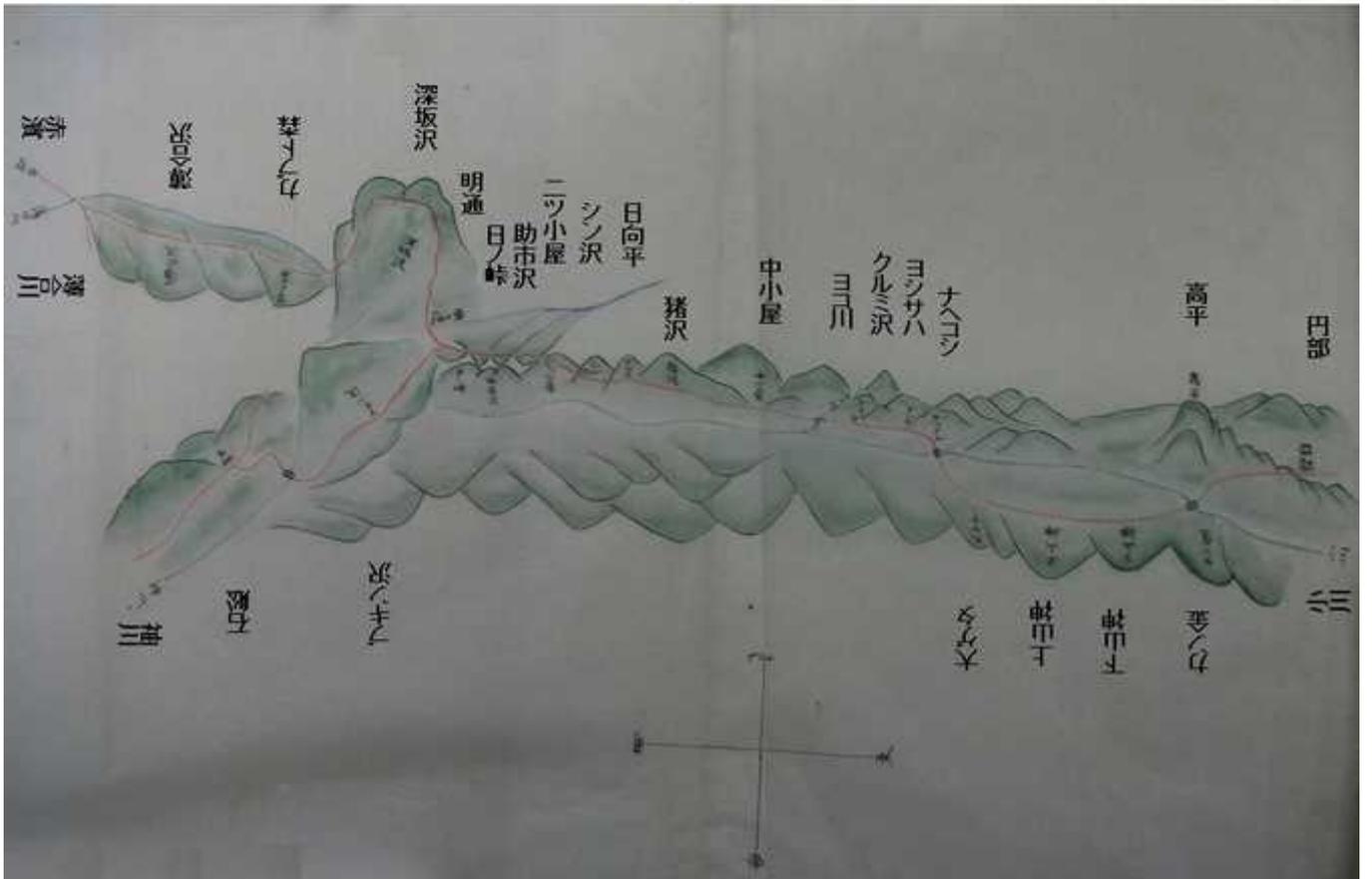
※ 新道大意ノ部冒頭 明治7年第3区長立岩一郎(旧米沢藩士)は、米沢までの道路開削を福島県に建議した。これが万世大路建設の端緒となった。

(3) 土工表(数量総括表)、第5回ルート調査報告書添付絵図(第3区戸長 大谷知至 明治8年10月)

全 下 工 事 之 概 観

区	町	村	区	町	村	区	町	村	区	町	村
第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十	第十一	第十二
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

明治八年十月



※ 明治7年、第3区(中野村など25ヶ村)の区長立岩一郎(旧米沢藩士)が福島米沢間の道路建設を県に提案(万世大路建設の端緒)、地元有志が日ノ峠まで第1回のルート調査(M7.7.5)をおこないその後第4回調査まで実施している。明治8年10月には、第3区戸長大谷知至らが第5回目の調査をおこない上掲絵図(一部加筆)を添付し安場保和福島県令に報告、同月福島県職員による第6回目の調査が実施されほぼルートが固まり、明治9年(1876年)10月には、第7回目の調査が山吉盛典参事(のち県令)により実施され中野新道のルートが決定している。